

# レブングル自然情報

「くるくるレブングル」 <http://www11.ocn.ne.jp/~rebuncle/index.html>

## 北上するウミネコの群



津軽町の海岸に500羽余りのウミネコの群れが到着した。 3月10日

例年、3月初旬になると南下していたウミネコの群が北上し礼文島の海岸に立ち寄る。この時期の群の中には礼文島で繁殖していないセグロカモメやカモメも含まれるので、礼文島周辺で繁殖するものだけではなく、まだ移動の途中の個体も含まれると思われる。今年も例年なみに海岸に集まったウミネコは「ミャオーミャオー」と猫の声に似た鳴き声をこだまさせている。フェリーの入港時に汽笛などに驚くと一斉に舞い上がり、青空に無数の白い羽根が光り、紙吹雪を散らせたようにも見える。

カモメの仲間ではウミネコとオオセグロカモメが礼文島周辺で繁殖している。そして、ウミネコは冬期間（11月初旬～3月初旬）は礼文島周辺の海域を離れ、香港付近まで南下し越冬するとされる。

津軽町の方によると一週間ほど前からゴメ（カモメ類を島ではそう呼ぶ）の群が海岸に見られるようになったが、カモメの見分けには詳しくないので、ウミネコが混じていたかは定かでは無いようだ。礼文島では例年8種類のカモメの仲間（大背黒カモメ、背黒カモメ、鷺カモメ、白カモメ、百合カモメ、三指カモメ、カモメ、ウミネコ）が確認されるが、足が黄色いのはウミネコとカモメだけで、見分けのポイントとして覚えておくと良い。昨日までに比べて今日はゴメがやけに増えて騒ぐと思ったら、注意して観察すると足の色が赤、黄、黒、くちばしの色が赤、黄、黒、白などと違っている種類がいくつも混じっていることがある。興味のある方は見分けるコツを教えますのでレブングルまでご連絡下さい。

## 2006年2月の自然日誌

- 1日 晴れ-8℃ 利尻クッキーリ/星空綺麗/放射冷却
- 2日 曇雪後晴れ-10.1℃
- 3日 晴れ後雪-11.8℃・午前利尻見えた。
- 4日 晴れ時々雪-5.9℃・利礼航路全便欠航
- 5日 吹雪-10.5℃・スコトン岬/オオワシ1  
・海馬島/アザラシ319/オオワシ1  
/上泊/アザラシ7
- 6日 晴れ/雪-6.9℃・鮑古丹鯨死体（2日頃漂着）  
・大備上空オオワシ2/オジロワシ1
- 7日 晴れ-6.9℃/利尻見えた。  
・元地地蔵岩オオワシ1・漁港オジロワシ1  
・猫岩オオワシ2
- 8日 晴れ-6.5℃/利尻見えた。
- 9日 吹雪/・利礼航路午後欠航/西上泊道路閉鎖
- 10日 吹雪-6.8℃・レブングル自然情報94発行
- 11日 雪のち晴れ-8.0度・ベンサシ/オオワシ1
- 12日 晴れ-10.5℃/13日 雪晴れ/
- 14日 晴れ-2.5℃/後一時雨/15日 晴れ・
- 16日 吹雪/寒い-5.3・利尻見えた。
- 17日 吹雪-9.5℃・利礼航路全便欠航
- 18日 晴れ一時吹雪-8.5℃  
・入舟沢上空オオワシ1  
・雪灯りフェスタ～20日
- 19日 晴れ-2.8/+0.2℃/・元地オオワシ2飛翔  
/スコトン岬オオワシ1飛翔/・海馬島アザラシ39
- 20日 晴れ暖気+3.4℃
- 21日 曇暖気+4.7℃/  
・道路グチャグチャ/香深井雪崩  
・NHK朝の自然情報/春の兆し
- 22日 曇後雨暖気+3.9℃/23日 雪-4.5℃
- 24日 晴れ-5.7℃  
・海上ウミウ、オオセグロカモメ多
- 25日 晴れのち曇り-3.1℃
- 26日 曇り午後雨/暖気+2.1℃  
・利礼航路利尻便欠航
- 27日 吹雪-3.7℃・利礼航路全便欠航
- 28日 晴れ-6.5℃

## 礼文島自然クラブ/会員募集

礼文島自然クラブでは植樹をしたり、自然観察をする仲間を募集しています。礼文島在住で礼文島の自然に興味をお持ちの方、一緒に活動しませんか。夏には桃岩歩道のタンポポ抜きなども行っています。（連絡先86-1089宮本）

レブングル自然館ではあなたの周りの自然情報待っています。なにか変わったことを見つけたら教えてね

### 礼文島の植物6

カエデ科カエデ属 イタヤカエデ/板屋楓

*Acer mono Maxim. var. marmoratum* Hara f.

/花は雄花と両性花があり、

5月下旬黄緑色の目立たない花をつける。

/8月翼のある実をつける。

/島内一円にあり、

風当たりの強い西海岸側では低木化している。



イタヤカエデの実と葉 8月12日



6月1日/雄花



1月2日/冬芽

「カエデ」は葉の形が蛙の手に似ていることから「かえる手」の転訛ではないか。と言われている。楓の仲間には日本に二十数種野生しているが礼文島で自生の確認されているのはイタヤカエデだけで、利尻島ではミネカエデの記録もある。板屋の名前の由来は葉が茂ると板屋根のように雨が漏らないことからといわれる。最近では樹液をメイプルシロップと呼び、菓子などに使われているが、アイヌの人々もトパーニ（乳汁の木）と呼び、そのまま飲んだり煮つけて甘味料として利用していたそうだ。

### 雪原を歩く2/利尻島

2月に2度利尻島に渡る機会を得ました。2月は利礼間のフェリーが1便しか無く、さらに到着は夕方5時過ぎとなるため、行動は二日目からとなります。2月14日の晩は雨となり天気が危ぶまれましたが翌15日は曇、まずまずの天気でした。山が見えることを期待して予定どおり、沓形から車で反時計回りに島を一周することにしました。町を離れ海岸に出ると以外に波が高く、久連付近では防波堤に当たった波しぶきが道路にまであがっていました。最初の目的地の仙法志岬までは沓形から約20分ほど、駐車場から固雪を踏み、荒々しい海岸の見える場所に向かいます。夏にはエゾカンゾウやエゾオグルマなどの花が見られ団体客で賑わう園地も、今は雪に覆われ訪れる者は私一人。残念ながら山のピークは雲に隠れ見えませんが、強い南からの波が岩肌に次々と当たる様子が冬の厳しさであり、美しさでもあると感じられました。しばらく風を背に波を眺め次の目的地に向かいます。南浜湿原やオタマリ沼も雪に覆われた平原と化していますが、海岸と違い風の影響が少なく穏やかに感じられました。山が見えていないと魅力にける場所はとぼして、島をひと回りしてから沓形の森林公園にむかいました。森は夏にはチシマザサに覆われ、視界が遮られ近寄れない雰囲気もあります。でもこの時期は雪が固くしまり歩きやすく、夏には近付けられない岩山の上に登り、高い古木に手を触れることができます。利尻島の森にはかなりの数のクマゲラが生息していて、食痕が残った枯れ木もたくさん目に付きます。この日はクマゲラの姿は見えませんが、ヒガラやシジュウカラの群れがときをり姿を見せました。太陽が雲の合間に顔を出すと日差しが暖かく、岩山の上からは真っ白い礼文島がよく見えました。

